

会 報

2000年度

1. 春季大会記事

2000年度春季大会は、6月24日(土)に札幌市手稲区民センター・視聴覚室において開催され、以下の日程により研究発表と総会がもたれた(参加者41名)。

●研究発表(*印は口頭発表者)

(午前の部)

助野 実樹郎(北大大学院地球環境科学研究科・研)：大雪北部、小泉岳の永久凍土地域におけるエゾタカネヤナギおよびエゾマメヤナギの生育環境

石川 守*(学振研究員・北大大学院地球環境科学研究科・院)・渡辺 悌二(北大大学院地球環境科学研究科)・中村 直弘(旭岳ビジターセンター)：カンチェンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布

渡辺 悌二*(北大・地球環境科学研究科)・大瀧 洋子(北大大学院地球環境科学研究科・院)・ラクシミ、ティミルシナ(トリバン大学動物学教室・院)：ネパール東部、カンチェンジュンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全

宮内 盛一*(網走市立西小学校)・佐々木 巽(北海道教育大学釧路校)：オホーツク海に流入する河川の特長について

(午後の部)

百瀬 裕水(北大大学院文学研究科地域システム科学講座・院)：長野都市圏における交通体系の変化と課題

川村 真也(北大大学院文学研究科・院)：GISを用いた都市社会環境の分析

寺田 稔(北海学園大学共通教育研究センター)：北海道の農業地域における生活環境と地域の活性化

●総会

1999年度事業報告・決算報告・監査報告について：

幹事長より1999年度事業報告と決算報告がなされ、また会計監査より監査報告があり、いずれも承認された。事業報告として1999年度春季大会、秋季大会(余市巡検)が報告され、また会誌74号については、会誌73号に原稿募集の記事は掲載しているものの、今回は原稿募集の葉書を改めて出さなかったこともあって投稿が1つしかなく、改めて原稿募集案内(8月31日締切)を通知し、秋期を目的に発行することが報告された。

2000年度事業報告計画について：

幹事長より今春季大会のほか、会長より本会創立50周年記念事業について、細部はなお検討して詰める点があることを前提にして次の事業計画の骨子が説明、提案され、了承された。細部は、幹事会さらに設置・発足した本会50周年記念事業委員会において検討することとした。

(1) 記念シンポジウムの開催について

ア. 本会創立50周年記念事業の一つとして、秋季大会を創立50周年記念シンポジウム大会とする。

イ. シンポジウム大会のテーマとして、ちょうど西暦2000年にも当たり、21世紀の地理学の展望として、地理学の研究成果を社会に敷衍・還元することが重要になっていることから「北海道における環境と開発—地理学が果たしえる役割と今後の展望—」とし、広く一般の方にも参加を呼びかけたい。

ウ. シンポジウムの内容は、基調講演、パネルディスカッション4テーマを計画しており、すでに基調講演として辻井達一先生、またパネルディスカッションのテーマ報告者に小野有五会員、氷見山幸夫会員にそれぞれご内諾を得ているが、残り2名の磯田憲一氏(道総務部企画調整室長)と藤田郁男氏(「環境学習フォーラム」代表)に依頼中であること。

エ. 期日は11月11日(土)を予定し、会場として北海学園大学国際会議場を確保していること。

(2) 二つ目の記念事業として、会誌75号を「創立50周年記念号」とし、記念シンポジウム内容、学会小史、「北海道地理総索引」を掲載する(一般の論文等は1回休み掲載しない)。

(3) 以上の記念事業を学会の通常会計のみで賄うのは困難であり、募金活動を行うこと。

ア. 募金は1口2,000円を目安とし、会員のほか、地理学に関連する企業等、民間団体にも呼びかけること。

イ. 募金活動は今総会決定後なるべく早く開始し、年度末(2001年3月末日)までとすること。

(4) 創立50周年記念事業運営委員会の設置について

すでに幹事会内部では、今年度に入り7人(会長、両副会長、幹事長、大内幹事、橋本幹事、菊地幹事)によるプロジェクトチームを組んで事業内容を検討しているが、今後増える上記の事業業務により記念事業運営委員会を設置したい。

ア. 委員として幹事会メンバーに加えて一般会員から若干募ること。委員の人は幹事会に一任されたいこと。

イ. 記念事業の予算は記念事業会計として別会計とし、現

在、別提出の予算（概要）を考えていること。

計 583,857

1999年度決算報告：

◇通常予算分

(収入)

繰越金	174,245
会費収入	467,600
雑収入	114,869
計	756,714

(雑収入内訳：広告料 80,000 預金利子 564
秋季大会補助より還元 27,455 寄付金 6,850)

(支出)

会誌 No.74印刷費	[500,000]
著者別刷補助 (会誌 No.73分)	67,500
事務費	7,378
通信費	43,710
謝礼	0
秋季大会補助	40,000
会議費	0
予備費	16,819
計	675,407

(予備費として、本会顧問・故奈良部先生葬儀の花輪・弔電代等 16,819を支出)

(会誌 No.74印刷費は未発注で予定額。

したがってこの額は会計現額として存在する)

次年度繰越金	81,307
--------	--------

(会誌74号印刷費を500,000と予定した場合)

2000年度予算案：

◇通常予算分

(収入)

繰越金	81,307
会費収入	400,000
雑収入	102,550
計	583,857

(雑収入見込み：広告料 100,000 会誌売却 2,000
預金利子 550)

(支出)

会誌 No.75印刷費 (通常会計支出分)	370,000
事務費	10,000
通信費	55,000
謝礼	0
秋季大会補助	40,000
会議費	5,000
予備費	103,857

◇記念事業予算 (概要)

(収入)

記念事業募金 (目標)	300,000
通常会計より繰り入れ (会誌75号一部負担分)	370,000
計	670,000

(支出)

記念シンポジウム運営経費	160,000
会誌75号印刷費	498,000
予備費	12,000
計	670,000

会則の改正と細則の制定について：

本会会則が基本的に本会創立以来改訂されておらず、実態に合わない面があること（編集委員会等の規程がないなど）から、細則を新たに設けて全面的に会則改正の検討が幹事会において1月以来進められ、その結果、6月14日の2000年度第2回幹事会で審議された成案が幹事長より説明、提案がなされた。

提案に対して、①本則と細則が基本的にあまりに細かく規定され、果たして本会で機能し得るか、②本則と細則の関係で対応が未整理なところがみられる、③条文において意味不明なところもある、との意見があり、さらに整理して本会の実態において機能し得る会則を検討し、次年度総会に報告・提出することで了承された。

2. 創立50周年記念事業運営委員会の発足と事業内容

2000年度総会において骨子を提案、了承された本会創立50周年事業について、プロジェクトチームでは電子メールなどの連絡により、運営委員会の組織案とシンポジウムの細部を詰めるべく、8月上旬に幹事会を検討したが各位多用のため延期され、8月28日の幹事会において記念事業運営委員会の組織が了承、またシンポジウム趣旨文、パネルディスカッションテーマ報告者について大筋が報告された。

9月13日、記念事業運営委員会が開かれ、これまで検討された記念事業の内容を確認し、組織と役割分担を決め活動することになった。シンポジウム趣旨文を含むシンポジウム・プログラム、運営委員会組織、募金活動による2001年3月末時点での募金者名簿を、本文記事最後（総索引の次）に掲げた。なお、最初の見金太郎氏（北海道）については、8月末まで磯田憲一氏に依頼、ご内諾を得ていたが、磯田氏の緊急なご予定のため、磯田氏により金氏のご紹介

いただいたものである。

3. 秋季大会について

創立50周年記念シンポジウム大会として、11月11日(土)、北海学園大学国際会議場で開催され、内容を今号に掲載した。

4. その他

●会員消息(会誌74号掲載以降、順不同、敬称略)

(入会)

石川守(北海道大学大学院地球環境科学研究科・院)、大瀧洋子(同前)、栗山丈弘(北海道教育大学札幌校・院)、川村真也(北海道大学大学院文学研究科・院)、佐藤太一(北海道教育大学旭川校・院)、助野実樹郎(北海道大学大学院地球環境科学研究科・院)

(退会)

相原正義、矢野牧夫、青木かおり

●訃報

本会会員・大森好男先生は、2000年7月1日朝、大変不幸な事件のため突然逝去された。大森先生は1991～1992年度期の本会副会長、その後も1993～1996年度の2期にわたり本会会計監査の役を務められ、本会の運営にご尽力いただいた。また、1981年度の本会秋季「函館大会」においては大会運営に奔走された。先生は、函館中部高校、利尻高校、北広島西高校などで教鞭を執られ、かたわらその地の地域研究にも精励され、「利尻の郷土誌」を出版されるなど、生きた高校地理教育を实践された。本会にもその成果を研究発表され、「高校地理における統計学習について」のご寄稿がある。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈りします。

本会会員・山田豊治先生は、2001年2月4日、心不全のため逝去された。山田先生は、長年、根室高等学校で教鞭を執られ、また北方地域研究会を主宰され、高校地理部顧問としても生徒部員と一緒に北方領土の旧住民からの当時の国後・択捉島地誌復原の聞き取り調査、根室半島の旧陸軍建設・トーチカの分布と形態調査、風連湖の自然地理調査など、多彩な地域研究と高校地理教育に活躍された。

本会にその成果の一部を寄稿したい旨のお手紙が届いた矢先の訃報であり、大変惜しまれてならない。

ここに、謹んで先生のご冥福をお祈りします。

●学会よりのおもな会誌配布先(交換も含む)

日本地理学会、人文地理学会、東北地理学会、福島地理学会、北海道立文書館、北海道立図書館北方資料室、北海道大学図書館北方資料室、北海道教育大学本部図書館、札幌大学図書館、北海道開拓記念館資料室、北海道地下資源調査所、古今書院編集部、大明堂編集部、シカゴ大学極東文化研究所資料室、東京都立大学図書館、国立国会図書館、地理教育研究会(筑波大学附属駒場中等学校内)